



私の3冊

高島英昭

後輩に薦める 2 冊

藤島一郎（著）

脳卒中の摂食・嚥下障害 医歯薬出版 1993 年発行

浜松で嚥下造影を始めたころに指導医から薦められて出会った最初の嚥下障害の教科書です。当時出版されたばかりの第1版で嚥下障害に関するあらゆることを学びました。使いすぎてボロボロになりました。現在最近の知見がアップデートされた第3版に改訂されています。嚥下障害初学者がまず読むべき教科書の1つです。

Connie Watkins Bales, Julie L. Locher, Edward Saltzman（編）

Handbook of Clinical Nutrition and Aging, 3rd ed

Humana Press, 2014 年発行

栄養と老化の分野におけるベンチマークとなるテキストです。栄養と加齢関連疾患との相互作用に関する新しい視点と最新の実証的なエビデンスが網羅されています。肥満・糖尿病・心不全・がん・腎臓病・骨粗鬆症・褥瘡など、幅広いトピックについて記されており、論文作成時のエビデンスのリソースとしてお勧めします。

自分の 1 冊

Ronald Ross Watson, Victor R. Preedy（編）

Bioactive Nutraceuticals and Dietary Supplements in Neurological and Brain Disease : Prevention and Therapy

Academic Press, 2014 年発行

脳・中枢神経疾患における栄養療法のテキストです。私も脳出血後の経口摂取について分担執筆させていただいています。基礎から臨床まで非常に広い範囲をカバーするものですが、マニアックです。でもカラフルで見やすいです。深く学びたい方に“のみ”お勧めします（笑）。

■ たかはた・ひであき 医師 25 年目 長崎大学病院リハビリテーション部

1993 年長崎大学医学部を卒業し脳神経外科に入局しました。研修医 2 年目に勤務した浜松市で脳血管内手術と嚥下造影に出会いました。1997 年に長崎大学脳神経外科で脳血管内手術チームを立ち上げ、脳血管内手術を中心に脳神経外科医として仕事をしながら嚥下障害の勉強を続けていました。2014 年に産業医科大学リハビリテーション医学講座で蜂須賀研二先生・佐伯寛先生のもとリハビリテーションを学ぶ機会をいただき、2017 年からは長崎大学病院でリハビリテーション科立ち上げのために勤務しています。